

Poema de Fernán González II

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

Fernán González, son of Gonzalo Fernández, count of Arlanza and the Duero, was born in the first years of the ninth century near Burgos and died in 970.

This legendary count of Castile grew up in the castle of Lara.

Defying Ramkro II of Leon and Sancho II of Navarre and fighting Muslims in the midst of Reconquista, he established, despite being imprisoned twice, the foundations for an independent Castile, which, during his time, was only a frontier of the kingdom of Leon.

He died after living a turbulent life, and his remains were buried in the monastery of San Pedro de Arlanza, which he himself had founded.

The poem of Fernán González was written between 1250 and 1271 in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way). Its style has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This time translation is made from the strophe 202 to the 404.

フェルナン・ゴンサレスの歌 II

太田強正 訳

フェルナン・ゴンサレス (Fernán González) はスペイン北部ブルゴス (Burgos) にほど近いララ (Lara) の有力者の家に 10 世紀の初め頃生まれ、幼少期をララの城で過ごした。時はアラブに占領された国土の再征服 (Reconquista) の時代で、レオン (León) 王国の辺境にあったカスティリヤ (Castilla) 地方に生を受けたフェルナン・ゴンサレスは伯爵として後に世界に号令することになる大帝国スペインの母体となるカスティリヤ伯爵領の基礎を築いた人物である。

因みにカスティリヤとはアラブとの前線で城 (castillo) の多くある地方の意である。

数々の伝説に彩られた英雄である伯爵は非常に抜け目のない人物であったようで、レオン王国の混乱とアラブに対する勝利に利を得てカスティリヤを独立に導いた。

しかしレオン王国のラミロ (Ramiro) 二世やナバラ王国のサンチョ (Sancho) 二世などと対立し二度の投獄の憂き目にあっている。

この叙事詩は伯爵自身が建立したサン・ペドロ・デ・アルランサ (San Pedro de Arlanza) 修道院の無名の修道士によって 13 世紀後半に書かれたものと言われ、史実と異なる箇所が (例えば伯爵はコルドバ <Córdoba> のカリフ王国 <後ウマイヤ王朝> の実質的独裁者アルマンソル <Almanzor> と戦ったことになっているが時がずれていて合わず、実際は戦ったのはアブデラマン <Abderramán> 三世であった) 数々ある。

作品はメステル・デ・クレレシーア (mester de clerecía) と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人 (jugulares) によるメステル・デ・フグラリーア (mester de juglaría) と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア (cuaderna vía) と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩である。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

今回は第 202 連から第 404 連までを掲載する。

- 202 ゴンサロ・ディアスという賢明な男が話しました
彼は意見を言うのを聞いて欲しかったのです
《私の言うことを聞いてくれ—と言いました—友たちよ、キリストが君たちをお許しくださるよう
今は戦う時期ではない
- 203 人が何か道を見つけることができるのなら
この戦いを避けることができるような方法を
我々は停戦も貢物も拒むべきではないでしょう
それによってあの男を手なづけるられるなら
- 204 他の多くの事においてお金がかかります
戦いで人は逃げられません

体と魂すべてをそこにかけるでしょう
金でも銀でもそれを得ることはできません

- 205 多くの者が無定見な背教の民で
騎士や歩兵たちは皆用意ができています
我々は仲間が少なく、武器は非常にわずかです
もし敗れば皆首を切られるでしょう
- 206 もし我々がアルマンソルと協定を結べれば
贈り物や約束で戦いを避けられるような協定を
それが我々が取りうる最良の手段です
もし他のことをすれば、我々は負けるかもしれません
- 207 君たちはすでに私の意見をすべて聞きました
もし私が道理なく話したのなら、許してください
今度は君たちが良いと思うことを言ってください
お願いですから伯爵に助言できる最良のことを》
- 208 ゴンサロ・ディアスには伯爵は不満でした
ちゃんと助言されたと思わなかったからです
伯爵は怒っていましたが、彼に苛立った話し方はしませんでした
しかし彼の話したことすべてに反論しました
- 209 《どうか—と伯爵は言いました—私の言うことを聞いて欲しい
私はドン・ゴンサロにすべてにおいて反対したい
彼の言ったことすべてに対して、私は反論したい

なぜなら聞くに値しないことだけを言ったのだから

- 210 彼は第一に戦いを避けることを言った
しかし人は死を避けられない
人はそれを避けられないと知っているのだから
栄えある死を身に与えるべきです
- 211 我々が支払ういくばくかの貢ぎで停戦を得ることによって
我々は主人から家来になるだろう
カスティリヤを圧政から解放する代わりに
今までの圧政が倍になるだろう
- 212 欺くことで勝っても、それ以上ひどいことはない
これに陥る者は大きな過ちを犯すだろう
欺瞞を禁じるために救世主は死んだ
欺く者より欺かれる者の方がましである
- 213 我々の祖先は忠誠を守り
他の地にそれを伝えた
彼らはこれを守るために死を忘れた
持っていた欲望をすべてそこで終わらせた
- 214 彼らはまだ悪事を働いている
誰もこれを止められない
価値があまりないので受け継ごうとしない
質に入れることも売ることもできないものを

- 215 この負債を我々の祖先は負うた
生きる者すべての中からよく主人に仕えた
主人たちよりも先に死ぬことを務めだと思っていた
これを守って彼らは最良の褒美を得た
- 216 もう一つのことを忘れてはならない
たとえ君主が不用意なことをしても
祖先は決して古い怒りを宿さいで
つねに忠誠を忠実に示した
- 217 このように不倶戴天の敵は事を運んだ
良き王ドン・ロドリゴが領土を失った時
価値のない所だけがスペインに残った
非常に古い土地旧カスティリャを除いて
- 218 我々の祖父は非常に長い間苦しめられた
というのはモーロ人が彼らを非常に強く隅に追いやっていたので
わずかな人間がわずかな土地に集められていて
飢えと戦争でとても苦しめられていた
- 219 彼らは多くの患難と苦悩を味わったが
他の者たちからいつも勝ち得て、自分の物を失わなかった
死の恐怖に会っても決して過ちを犯さなかった
このために彼らのすべての敵を打ち破った
- 220 この事すべてをいかにして忘れられようか

彼らが行ったことを我々は継承すべきである
これを心に留め置けば、我々は過ちを犯すことはできないだろう
この事すべては我々を悪行から解放してくれる

221 祖先のことは置いておいて、私たち自身ことに戻りましょう
戦いに行く準備をしよう
死を恐れて戦いを回避するのは止そう
倒れるのか立ち上がるのか、そこで決めよう

222 頑張れ、カスティリヤの人々よ、恐れてはならない
我々はそのアルマンソル王の軍を打ち破るだろう
我々はカスティリヤを抑圧と過ちから解放するだろう
彼が敗者で、私が勝利者となるだろう

223 彼らは大勢でも価値がない
.....
三匹の獅子の方が三万匹の狐よりもっと力がある
三十匹の狼は三万匹の羊に向かって行くだろう

224 友たちよ、私はあることをよく知っている
我々は疑いなくモーロ人アルマンソルを破り
スペインのすべての人々から君たちは私を最良の者とし
私の名誉は大きいものとなり、君たちのはさらに大きくなるだろ
う》

225 伯爵が話し終えると

このような言葉に家来衆は元気付きました
 伯爵は全家臣と共にムニョから移動し
 別の宿営を求めてララに向かいました

- 226 鋭い知恵の持ち主であるドン・フェルナンド伯爵は
 馬に乗り、仲間の所を離れました
 彼は豚を探しに行くために山に入ると
 ラス・ケバニャス⁴⁹⁾の近くの小川でそれを見つけました

- 227 豚は険しい所に逃げました
 そこにはねぐらにしている洞窟がありました
 豚はそこでは安心せず
 隠れ家に逃げ込み、祭壇の後ろに入り込みました

- 228 それはツタで屋根を葺いた隠れ家でした
 それがすべて何でもないように見えるためでした
 三人の修道士がそこで厳しい生活をしていました
 その聖なる家は聖ペトロという名でした

- 229 伯爵は岩があるため拍車をかけることができませんでした
 馬の手綱をひいて下りなければなりませんでした
 そして豚の行って行ったところに入って行きました
 隠れ家に入り、祭壇まで進みました

- 230 ドン・フェルナンドがそのような誇りある場所を見ると
 豚をあきらめ、そこで殺そうとはしませんでした

《主よ—と彼は言いました—風と海が恐れるお方向に向かって
もしこのことで私が間違いを犯したのなら、お許してください

- 231 あなたにはっきり申し上げます、乙女聖マリア様
この聖なる場所については、ご婦人、私は知らなかったと
私はここには腹をたてるためには入らないでしょう
供え物をしたり巡礼をしたりするためではなく
- 232 主よ、私を許し、私を護り、私を助けてください
私に対してこんなにも向かってくる異教の民に対して
不信心者からカステイリヤを護ってください
もしあなたが護ってくださらないなら、私はそれを失ったと判断
します》
- 233 伯爵が祈りを終わると
彼の元へその貧しい住まいの修道士が一人やって来ました
ベラヨという名で、苦しい生活をしていました
彼は伯爵に誰なのか、どんな目的で来たのか尋ねました
- 234 伯爵は豚を追ってそこに来たと言いました
家臣たちから分かれて、離れてしまった
もしこの過ちによってアルマンソルに所在が知れたら
生きて逃れる地はないでしょうと
- 235 修道士は答えて言いました：《友よ、どうかお願いする
もし良かったら私のところに泊まってくだされば

私はあなたに大麦のパンを与えよう、私には小麦がないので
そうすればあなたは敵に対してどうすれば良いか知るでしょう》

- 236 すべてにおいて完璧なドン・フェルナンド伯爵は
ペラヨ修道士のもてなしを受け入れ
聖なる隠者から厚遇されたと思いました
生まれてこの方これ以上の宿はなかったでしょう
- 237 ペラヨ修道士は伯爵に向かって言いました
《私は良き伯爵であるあなたにお知らせします
創造主があなたの戦いを導くことを望んでいると
あなたはモーロ人アルマンソルの軍を破るでしょう
- 238 あなたは不信心者に対して大きな戦いを挑むでしょう
あなたが命を奪う民は多数でしょう
あなたは土地の大部分を獲得するでしょう
王たちの血があなたによって流されるでしょう
- 239 私はあなたのすべての運についてこれ以上言いたくありません
あなたの槍は皆に恐れられるでしょう
私があるに言うことはすべて確かだと思いなさい
あなたは二度捕らえられるでしょう、疑うことがないように
- 240 三日経つ前にあなたは非常に困ったことになるでしょう
というのはあなたの民全体がとても恐れているのを見るでしょう
から

彼らは今まで人が見たことのない強烈な印を見るでしょう
彼らの中のもっとも頑丈な者でもひどくひるむでしょう

- 241 あなたは彼らをできるだけ励まさなければならない
彼ら皆に女みたいだと言わなければならない
あなたはできるだけ良くその印を説明しなければならない
説明すれば彼らは恐れをすべてなくするでしょう
- 242 さあ聞いたことを胸に出発しなさい
この貧しい場所を忘れないでください
あなたはあなたの民が悲しみ苦しんでいるのを見るでしょう
泣き叫びながら
- 243 彼らは泣いても嘆いてもまったく間違っていない
なぜなら彼らはあなたが捕らえられ、モーロ人たちがあなたを殺
し
自分たちには君主が無くなり、慰めもまったくないと思っている
から
彼らはあなたによってモーロ人から救われたいと思っていたので
す
- 244 しかしお願いする、友よ、心からそうします
あなたが戦場で勝利した時には
この苦難の修道院を思い出してください
そしてこの貧しいもてなしを忘れないでください

- 245 ご主人様、我々三人の修道士で、とても貧しい修道院です
我々の貧しい暮らしは比類もなくお話しにもなりません
もし神がなんらかの慰めを送ってくれなければ
蛇に我々の住処を与えることになるでしょう》
- 246 伯爵は教育を受けた者として答えました
彼は言いました：《ペラヨ修道士よ、心配しないでください
あなたが要求したことすべてがあなたに与えられるでしょう
あなたは誰をもてなしたか知るでしょう
- 247 もし神がこの戦いに勝たせてくれたら
私の全取り分の五分之一をここに差し上げたい
そして私が死んだらここに埋めてほしい
この場所が私によっていつまでもより良くなるように
- 248 私はもっと堅固な土台を持った別の教会を立て
その中に私の墓を作り
百人以上の修道士が住むところにして
全員が神に仕え、その戒律を守るようにしよう》
- 249 伯爵は喜び非常に満足して修道士に別れを告げ
幸福な彼はララにやって来ました
そこに着いて、彼の軍が彼を見ると
涙と嘆きが喜びに変わりました
- 250 彼は家臣たちに何が起こったか話しました

彼が会った隠れて暮らしている修道士について
どのようにして彼の客になってもてなしを受けたのか
生まれてからそれ以上の宿を取ったことがなかったことを

- 251 翌朝伯爵は家来衆に移動を命じました
一人のキリスト教徒に千人の異教徒がいました
伯爵の軍はわずかでしたが、優秀な戦士たちでした
皆等しく心が燃えていました
- 252 モーロ人とキリスト教徒はお互いはっきり目で見分かりました
誰も異教徒の数を数えることはできなかつたでしょう
彼らは丘も平地も皆覆いつくし
キリスト教徒を手で捕らえようと考えていました
- 253 異教徒たちは大いに喜び
角笛を鳴らし、叫び声をあげていました
不幸者どもは非常に大きな音を立てていたので
山も谷も震えているようでした
- 254 フェルナンド伯爵は非常に苦悩していました
戦場でモーロ人と相見えて死にたいと思っていました
その日悪魔がそこで支配すると信じ込んでいました
悪魔は十字架の民に大きな恐れを抱かせました
- 255 プエンテ・イテロ⁵⁰⁾ 出身の伯爵の手の者の一人が
美しい、軽快な馬に乗っていましたが

丘の上でその馬に拍車をかけると
 地が割れて、その騎士が飲み込まれました

256 から 262 まで欠損

263 またドン・ベラスコという一人の大貴族が

264 彼らは君主を護るのに全力を注ぎ
 自分の死には苦悩も苦痛も感じませんでした
 大きな義務感が彼らから死の恐怖を取り去っていました
 善人たちにはこの世より良いものはありませんでした

265 誰でもすぐ分かるでしょう
 こんなわずかな軍勢で人は大した事をしたためしがないと
 信じることは困難でしょう
 三百人の騎士でこんな大軍を破るなんて

266 騎士も歩兵もしっかり戦い
 皆できる限り君主を護りました
 君主が《カスティリヤ》と叫ぶと、それで意気が上がりました
 モーロ人たちはこのことすべてによって剣を収めました

267 伯爵は彼らに戦いを急がせ

自身はアルマンソルの天幕に近づいて行きました

.....
.....

268 これらの悪い知らせがアルマンソルのところに届き

自軍がいかにか破れたかを知りました

多くの死者と多くの負傷者が出ました

彼の王たちの中の最良の者たちを失いました

269 アルマンソルは自分で戦うために馬を要求しました

そこではカスティヤの騎士たちは幸運だったでしょう

キリスト教徒たちは彼を殺すか捕らえることができたでしょう

しかし異教徒の軍はそうすることを勧めませんでした

270 他の長々しい話して君たちを引き止めないように（言いますが）

アルマンソルはその騎兵隊と共に敗れました

そこにメシアの力が示されたのです

伯爵はダビデで、アルマンソルはゴリアテ⁵¹⁾でした

271 アルマンソルは苦悩し、逃亡しました

アルマンソルは言いました：《ああ、マホメットよ、私は悪い時

にあなたを信頼した

あたのすべての力は役に立たない

.....

272

.....

.....

私の大軍は皆死んだか捕らえられている
彼らは死んだのに、なぜ私は生きているのか》

273 異教の多くの人々が戦場で死にました
彼らの内無事な者は残りませんでした
.....
.....

274 異教の民が破れた時
カスティリヤの民が勝利者となりました
ドン・フェルナンド伯爵はすべてのキリスト教徒と共に
丘でも平地でも彼らを追跡しました

275 彼らは神と聖母マリアに感謝しました
このような大きな驚異を彼らに見せてくれたので
追跡は丸半日続きました
貧しい地域は永久に豊かになりました

276 アルマンソルが遠くに去った時
戦場はキリスト教徒でいっぱいでした
彼らは神がくれた財産を手に入れました
莫大なものだったので数えられなかったでしょう

277 彼らはアルマンソルの天幕に多数の財宝を見つけました
多くの純金製のカップや杯でした

キリスト教徒もモーロ人も今までそのような財宝を見たことがありませんでした

アレクサンダーやポロ⁵²⁾もそれに満足したでしょう

278 彼らはそこに箱や多くの袋を見つけました

それらは高価な金銀で満ちていました

絹製の多くの天幕と多くの戦場用の天幕

剣や鎧や多くの防具がありました

279 彼らは非常に貴重な象牙の小さな弓を見つけました

数えられないほどの非常に多くの財宝と共に

それらの内の最も多くのものがサン・ペドロ⁵³⁾に捧げられました

今日皆その祭壇に置かれています

280 彼らはこれすべてから気に入ったものを取りました

三分の二以上が運んで行けず残りましたが

見つけた武器は残しておくことを望みませんでした

彼らはすべての戦利品と共にサン・ペドロにやって来ました

281 彼らはそこに着くと、神に感謝を捧げました

皆子供も大人も祈りました

皆が一斉に《神に感謝》と言いました

各々が自分の宝石を祭壇に捧げました

282 神が彼らに与えたすべての戦利品のうち

幸運な伯爵は五分の一を取ることを命じました
彼に当たったものは何でも高く買い
それを彼を泊めてくれた修道士に与えるように命じました

- 283 伯爵と臣下そしてすべての戦士たちは
皆ブルゴスの町に着きました
非常に疲れていたのを休んで眠り
負傷者を癒すために医者呼びました
- 284 ひどく負傷したこれらの者たちをここに残しておきましょう
偉業を為したドン・フェルナンド伯爵は
すでに悪い知らせを聞いていました
ナバラ人たちが彼の民に略奪を働いたと
- 285 伯爵が神を喜ばせている間に
モーロ人とそのすべての軍勢と戦っている間に
ナバラ人たちの王は出動して
全カスティリヤを略奪し滅ぼそうと考えました
- 286 カスティリヤの人々はその知らせを聞いた時
自分たちは決して彼に復讐されることはないと思込んでいまし
た
彼らは言いました：《困難な時に我々不幸な者は生まれた
世界中の人々に我々は挑まれている》
- 287 カスティリヤの伯爵がそれを聞くと

苦痛のあまりもう少いで気を失う所でした
しかし猛き獅子のようにこのように呻きました
彼は言いました：《武装してでもそれを正そう》

288 カスティリヤの人々はこのことをひどく悲しんでいました
彼らを救うべき人が彼らを害していたからです
《主よ—と伯爵は言いました—私をお助けくださいますように
私があのような傲慢を早く止めさせることができるように》

289 伯爵はナバラ人たちの王に質問を送りました
彼が伯爵に対して何か好転させようと欲しているのかと
なぜなら自分は節度ある行いを自分のために行い
もしそれを望まいなら、伯爵は彼との対決を命じました

290 ドン・サンチョ王のもとへこの伝令が来ました
《王様、私はまずあなたの前にひれ伏します—と彼は言いました
—
私はカスティリヤの伯爵の使者です
最後まで伯爵があなたに言っていることをお伝えしましょう

291 伯爵があなたに大きな不満を抱いていて
それを取り去ってくださればあなたに感謝するであろうことをお
知りおきください
なぜならカスティリヤは長い間あなたに苦しめられました
年に二回あなたはカスティリヤを襲撃しに来ました

- 292 あなたはカステイリャに悪事を行い、カステイリャの民に打撃を
与えることによって
異教徒の民々と友達になり
キリスト教徒の民々に邪悪な戦争を仕掛けました
なぜなら彼らはあなたの手には落ちたくないからです
- 293 この事すべてに伯爵はあなたにすごい恨みを抱いています
というのはあなたがこの上ない非道以外のことしかしなかったか
らです
また伯爵がエストゥレマドゥーラ⁵⁴⁾で戦っている時に
彼に侮辱となったひどい損害を与えたからです
- 294 もしこの不満から彼を解き放つことをあなたが望むなら
こうして事態を好転させることが好ましいのですが
あなたはあなたの道義をなし、そして伯爵はあなたの安寧を図る
でしょう
もしものことをあなたが望まないなら、彼はあなたへの挑戦を命
じます》
- 295 使者が話を終わると
(これによって彼は任務を果たしたのです)
ドン・サンチョ王が話し、今度は彼の意見を言いました
《私は彼に一文も償う気はない
- 296 兄弟よ、伯爵のもとへ行行って、伝言を伝えよ
彼が私に挑戦するなど私は驚いている

彼は然るべく助言を受けなかった
このような取引から良い結果は得られない

- 297 私は彼は狂っていて脳が足りないと思う
ただ私に挑戦し、それで大胆になったということだけで
というのは今回はモーロ人を破ったのだから
その誇りからこのようなこのような挙に出たのだ
- 298 伯爵に言いなさい、私がすぐに彼を見つけに行き
塔の中だろうと城壁の中だろうと私から逃げることはできないだ
ろう
海の中までは探されないがと
私は何故伯爵が私に挑むほど大胆になったのか知ることになるだ
ろう》
- 299 使者は少しおびえて帰って行きました
王がひどく怒っているのを見たからです
使者はそのことを伯爵に告げ、何も隠しませんでした
いかに王が彼をひどく脅したのかを伯爵に話しました
- 300 伯爵はすべての家臣を呼ぶように命じました
すべての大貴族とすべての小郷士
また歩兵と同様盾持ちも
各人の心を知りたかったのです
- 301 彼らが集まると、伯爵は話し始めました

彼が非常に苦しんでいたことは誰にも分かったでしょう

《友たちよ、助言を求める必要がある

我々がこのような力を忌避できるように

302 我々はナバラ人から危害を受けるような覚えは決してなかった

彼らに対して決して不正や嘲り行ったことはない

彼らから我々が受けた不当行為は数多くあった

我々がその償いを彼らに求める機会は決してなかった

303 私は彼らが私たちに埋め合わせをしたいと思っていると思った

そしてこの悪行と損害を償おうと

しかし我々の不満を倍増しようとしているのだ

私とお前たちに挑んできている

304 友たちよ、そのような嘲りに耐えるのはよそう

その復讐をして、それで皆死のう

ひどい苦悩と悲しみを見る前に

神によって、私の家臣たちよ、彼らを攻撃しよう

305 我々にあっては彼らを攻撃することは我々の有利となる

彼らがより大きな奇兵隊でも

そこで臆病になるまい

我々が彼らを恐れることは非常に卑劣なことだろう

306 戦いにおいてはすべてが同じではないと知りなさい

百本の槍で野戦は勝利する

同じ心を持った百人の騎士の方ほうがより価値がある
不一致の三百人のすることよりも

- 307 そこには良い者と悪い者がいる、常にそういうものだ
そこにいる悪い者は持ち堪えられないだろう
こういう者のおかげで良い者を打ち破ることになるだろう
我々はそのような事が起こるのを何度も見ている
- 308 歩兵や騎士は我々よりたくさんいます
皆勇敢で軽快です
彼らは短い投げ槍と投げ矢で正確に攻撃してきて
良い騎士のついた良い仲間を連れています
- 309 このため我々が彼らを攻撃する必要がある
もし彼らが我々を攻撃すれば、彼らを優位にする
もし彼らが我々が彼らを恐れていないと分かれば
我々が彼らを攻撃する前に戦場を後にするだろう
- 310 もう一つ君たちに言う、君たちはそれを信じるだろう
私は戦いで死ぬか窮地に陥ることがあるだろう
その時私はカスティリヤの人々がいかに私を助けか見るだろう
君たちは全力を尽くすことが必要だろう
- 311 なんかの拍子で私が王に接近することがあったら
彼が私にした悪事の償いを求めようと思う
誰も彼を死から逃れさせることはできないだろう

もし彼が死ねば、私は自分の死を嘆かなくて済むだろう》

- 312 良き伯爵が話を終えると
家臣たちをナバラに向けて移動させるように命じ
約1日で彼らをその地に入れました
伯爵はサンチョ王をエラ・デゴリャダ⁵⁵⁾で見つけました
- 313 王は伯爵が非常に怒ってやって来るのを見ると
自分の軍を美しい牧場^{まきば}に導き入れました
カスティリヤの伯爵は頑健な民と共に
他の開戦日まで事を長引かせませんでした
- 314 両軍は槍を下げて攻撃に出ました
伯爵は聞いている通り先頭に立ち
ナバラのドン・サンチョは彼が来るのを見ると
軍を整えて、彼を迎え撃ちました
- 315 伯爵は前線の軍に攻撃をかけ
彼の行くところ皆が道を開けました
両軍共激しく戦い
ナバラ人たちは死をもって戦い、苦戦していました
- 316 戦いが非常に激しかったので
遠くからも攻撃のする音が聞こえて来ました
槍の折れる音と
剣のぶつかり合う響きと兜の裂ける音以外聞こえませんでした

- 317 ナバラ人たちは《ナバラ》や《エステリヤ》⁵⁶⁾と叫んでいました
断固たるカスティリヤの者たちは《カスティエリヤ》と叫んでい
ました
サンチョ王も時々《カスティエリヤ》と叫んでいました
何人かのフランス人が時々からかって言うように
- 318 伯爵と王はお互いを探し回りました
お互いが相見えるまで
彼らが携えていた武器が相手だとはっきり分からせました
両者は力の限り激しく攻撃し合いました
- 319 お互い相互に非常な攻撃を仕掛けたので
槍の穂先が体を突き抜けました
騎士たちもそのような攻撃は見たことがありませんでした
すべての鎧兜もまったく役に立ちませんでした
- 320 王は深傷に苦しみ
打撃で命はもうなくなると知りました
彼の偉大な勇気はすぐ打ちのめされ
魂が直ちに肉体から離れて行きました
- 321 伯爵は攻撃を受けひどい打撃を受けました
右の脇腹に槍による深傷を負ったからです
《カスティリアの者たちよ》と叫んでいましたが、誰も駆けつけ
ませんでした
彼はすべての騎士に見捨てられたのです

- 322 カスティリヤ人たちは自分たちはひどくしくじり
すべての功績がそこで失われたと思いました
カスティリヤ人たちは深い悲しみに暮れていました
なぜなら彼らは皆大きな過ちに陥っていたからです
- 323 各々自分の事でいっばいで
誰も伯爵のもとへ駆けつけることができませんでした
この恥ずかしさが彼らにまったく恐怖心を失わせ
力づくで敵軍を粉碎することになりました
- 324 カスティリヤ人たちは激しい攻撃を受けながら伯爵のもとへたどり着き
彼のもとに着くまえに多くの敵を倒しました
臣下たちは疑いなくひどい目に会った良き伯爵を見つけました
彼らはそこここで多くの魂を送り出しました
- 325 カスティリヤ人たちが着き、伯爵のもとへ駆けつけました
そこに着くや皆に襲いかかり
ナバラ人たちを無理やり追い払いました
伯爵は死んだものと思い、非常に恐れました
- 326 彼らは伯爵を地面から起こし、傷を見て
皆伯爵は死んだものと思い込み
もう少しで悲しみに正気を失うところでした
あたかも伯爵が死んだかのように彼らは非常に大きな悲しみに暮れました

- 327 ナバラ人たちに攻撃をかけ、伯爵から遠ざけました
立派な馬の上にご主人様を乗せて
顔に付いた血をすべてきれいにしました
皆また始めからのように泣き始めました
- 328 ナバラ人たちを大いに苦しめ、激しく戦っていました
多くの激しい剣の攻撃が兜に響き渡っていました
多くの有効な槍の攻撃を与え、また受けていました
そして多くの有効な棍棒での攻撃を与え、また受けていました
- 329 我々はあなたたちにこれ以上話しを長引かせたくありません
ナバラ人たちは戦場を後にすることになり
サンチョ王は死んでそこに留まることになりましたが
伯爵が彼をナバラに運んで行くことを直ちに命じました
- 330 ドン・サンチョのことはそのままにしておきましょう、創造主が
彼を許してくださるように
敗れたナバラ人たちは君主のために泣き
皆復讐の強い望みを抱いていました
君主への愛のあまり皆良き伯爵のところに向かって行きました
- 331 ピテオスとトロサ⁵⁷⁾の伯爵は
一王の親戚で、これは確かなことです—
自分の領地から素晴らしい軍を集め
非常に不運な時にカスティリャに向かいました

- 332 伯爵は戦いに駆けつける時間がありませんでした
しかしその事を知ると遅れまいとしました
ナバラの良き王にはしっかり復讐しようと思い
ヘタレアの峠⁵⁸⁾に着きました
- 333 ナバラ人たちは皆伯爵に対して集結しました
戦いがどんなであったか彼にすべて話しました
死者が何人出たか、残ったのは何人か
彼をいかにして二日間待ったのかを話しました
- 334 トロサの伯爵は彼らに非常に大きな励ましを与えました
これによって事をうまく運ぼうと思ったのです
《カスティリヤ人たちがこのひどい仕打ちを私にしたので
私は王に復讐しようと思う、彼らが彼を殺したのだから》
- 335 フェルナンド伯爵はもうその事を聞いていました
すでにその峠に来ていたので
フェルナンド伯爵は非常な深傷を負っていましたが
その状態でそこに行きました
- 336 伯爵の臣下たちは自分たちは間違っていると思っていて
伯爵に対してとても腹を立てていました
皆君主に対して非常な不満を抱いていたのです
いつも武装させられていたからです
- 337 彼らを休ませなかったし、安全にもしておかなかった

彼らは言っていました：《悪魔に対してではなければ、このような生活はない

悪魔は夜も昼も歩き、決して疲れない

伯爵はサタンで、我々はその家来のようだ

338 我々は戦うことを望んでいるし、彼をとっても愛しているのもし命を失わないなら、決して休まない

我々は昔の軍隊の兵士に似ている

すべてのものは疲れるのに、我々は決して疲れないのだから

339 我々がこんなに苦しんでいるのに、彼は我々のことを悲しまない

あんなに傷を負っているのに、自分のことも悲しまない

もし彼が死ねば、ちくしょう、カスティリヤは失われる

人はこのようなひどい凋落を経験したことがない》

340 彼らは伯爵に言うことで合意しました

良くないことは彼にすぐ言うと

大いなる誇りによって過ちに陥らない

悪しき強欲によって主君を失わないと

341 ヌニョ・ライーノ⁵⁹⁾が言いました：《ご主人様、もしお望みなら

もし適切、あるいは良いと思われるなら

治るまで静かにしているのがいいでしょう

強欲のため過ちに陥らないように

342 耐えることができるこの世の人間を私は知らない

我々とお前たちが忍ばなければならない命を
我々の大きな強欲が我々を休ませない
このことで我々は忘れるという方策を持たなければならない

343 すべてのことは一箇所に集まるものではない
人間は戦いにおいて大きな知恵を持つべきである
そうでなければすぐに大変な過ちを犯すことになり
それですべての大きな名誉を損なうことになりかねない

344 強い風を我々は疲れさせることができる
怒れる海は鎮まるのを我々を見る
悪魔は疲れないうし休むことができない
悪魔は我々の生活を自分のに似せたがっている

345 あなたの民を休ませ、あなた自身を癒しなさい
あなたは非常に深い傷を負っており、それを休ませなさい
あなたの民を来させなさい、まだ到着してないのだから
多くの人があることになっています、あなたは彼らを待つべきで
す

346 あなたは十日で傷からすっかり回復するでしょう
その頃にはあなたの民は来ているでしょう
そしてあなたは武装した民と戦場に立つことになるでしょう
彼は死んでいるか捕らえられているでしょう、この事を私は固く
信じています

- 347 ご主人様、私の言いたかった事をあなたに申し上げました
これよりも良い助言を、ご主人様、私はできないでしょう
臆病さからそう言っていると思わないでください
私が私の魂を護るようにあなたをお護りしたかったのです》
- 348 ドン・ヌニョが話を終えると
確固たる良き伯爵が話し始めました
伯爵は賢者ソロモン⁶⁰の偉大な完璧さをもっていました
アレクサンダーも決してこれ以上の大きな心をもっていませんで
した
- 349 伯爵は言いました：《ヌニョ・ライネスよ、お前は良い話をした
お前は事をありのままに語った
お前はこの戦いを長引かせることについて言ったと思う
誰がお前にそう言ったにせよ、お前はそれを誤解した
- 350 力のあるものはこの戦いを長引かせるべきでない
好機に恵まれる者は他の好機を期待したがる
我々が失う1日は取り戻すことはできないだろう
決して我々はあの日に戻ることはできない
- 351 もし人が時間を無為に過ごし
この世から何かを得ようとせず
悪徳に染まり、眠ったり休んだりする以外には望まなければ
最後を迎える時にはこの人の手柄も死ぬ

- 352 恵まれた者も不運な者も両方とも死ぬことになる
 どちらもそれを逃れることができない
 善行が残り、これらは生きることになる
 これから来ることになっている者たちはそれらを見習う
- 353 偉大な行為を成し遂げようとした者たちは皆
 非常な苦勞をしなければならなかった
 食べたい時に食べない、夕食も昼食も
 肉の喜びも忘れなければならなかった
- 354 彼らは昼夜アレクサンダーについては語らず
 彼の善行と武功については語る
 彼らはゴリアテを殺したダビデ王について
 マッテヤの息子ユダ・マカベウス⁶¹⁾について語る
- 355 カルロスとバルドビノス、ロルダンとドン・オヘロ
 テリンとグアルダブエイ、アルナルドとオリベロ
 トルピンとドン・リナルドス、そしてガスコニュ人のアンヘレロ
 エストルとソロモン、他の彼の仲間について語る⁶²⁾
- 356 私がお前たちに挙げなかったこれらの者たちと他の多くの者たち
 については

 彼らがそんなに立派でなければ、今日忘れられているだろう
 その立派な行為は最後まで語られるであろう

- 357 それ故我々は日々を数える必要がある
昼夜我々がどのように過ごしているか
無為に過ぎた日々はすべて決して我々は取り返すことができない
だろう
友たちよ、よく分かるだろう我々が間違っただ判断をしているとい
うことが》
- 358 騎士も歩兵も説得することとなり
彼らは彼の言ったことに答えることはできず
彼らは彼が良いと思ったことはすべてしなければなりませんでし
た
彼は話し終えると直ちに移動を命じました
- 359 フェルナンド伯爵は全家臣と共に
非常に流れの速い、非常に怒れる水辺に着きました
エプロと常に呼ばれていましたが、今日もそうです
彼らはそこに留まるのは非常に危険だと思いました
- 360 トゥルーズ人たちが岸を守り固めていました
カスティリヤ人たちはそれでも何でもありませんでした
多くの的確な槍の攻撃を相互に受けましたが
カスティリヤ人たちは瞬く間に川を渡りました
- 361 カスティリヤ人たちはその浅瀬を渡る時に激しい攻撃を受けまし
たが
ポワトゥ人の大群を破りました

彼らは望んでいなかったけれど、いやいや酒を飲んでいました
ある者は溺れ、ある者は泳いで逃げました

- 362 伯爵は流れの真ん中に道を開きました
トゥルーズ人たちは岸を離れなければなりませんでした
伯爵は軍を砂地の真ん中に配置し
奇妙な方法で彼らを攻めに行きました
- 363 良き伯爵が川を渡ると
怒っていたので、直ちに彼らに襲いかかりました
彼に追いつかれた者は全く不運でした
彼についてすぐに悪い知らせが親戚に行きました
- 364 非常な知恵者であるフェルナンド伯爵は
ポワティエ人たちに襲いかかり、彼らに甚大な被害を与えました
まるで布のように彼らの甲冑を破り
彼らには勇気も狡猾さも役に立ちませんでした
- 365 伯爵の良き家来たちが直ちに彼の元へ馳せ参じていました
というのは伯爵はそこに良き小郷士を多数持っていたからです
彼らは皆同じ所の出で、同じ心を持っていました
トゥルーズ人たちやガスコニュ人たちは苦しんでいました
- 366 しかしこの者たちは数が多かったのでカスティリヤ人たちを悩ませ
ていました
戦いはひどく熱を帯びて行き

その砂地は死者で一杯になって行きました
フェルナンド伯爵は彼らを猛攻撃していたのです

- 367 伯爵は敵軍に対して非常に腹を立てていました
打ち破れないのでとても苦しんでいたのです
彼は言いました：《あつてはならない、悪魔を嘆かせても
トゥルーズ人たちがこの戦いから利益を得るようなことがあつて
は》
- 368 伯爵は非常に激しく拍車をかけて敵軍に突っ込んで行きました
手に槍を持って、軍旗を高く掲げて
《良き伯爵よ、お前はどこにいるのだ》、と叫びながら
《戦場に戦いに出てこい、ここにドン・フェルナンドを見よ》
- 369 二人の伯爵⁶³⁾が打ち合う前に
トゥルーズ人たちは皆逃亡しました
こんなひどい負け方をした者はありませんでした
というのは彼らは非常な恐怖と恥辱のなかにあったからです
- 370 皆高い山を逃げ回りました
わずかな仲間しかトロサの伯爵のもとに留まりませんでした
彼はそのような大きな惨劇の中にいたことはありませんでした
カスティヤの伯爵は彼に強い怒りを覚えていました
- 371 トロサの伯爵は非常に怯えていました
というのはドン・フェルナンドが大いに怒ってやって来るのを見

たからです
 家来たちが彼は見捨てられたと思わないように
 武器を携えて戦場に向かって行きました

372 残酷な人間ではないフェルナンド伯爵ですが
 怒りで節度と善良さを忘れ
 怒りと意志を持ってトロサの伯爵に攻撃をかけ
 情け容赦なく彼を傷つけることに躊躇しませんでした

373 生まれながらの戦士であるカスティリヤの伯爵は
 トロサの伯爵に襲いかかり致命傷を負わせました
 そのガスコニュ人は深傷に苦しみ
 大声で言いました：《聖マリア様、お助けください》

374 トロサの伯爵はこの様に深傷を負い
 馬からすぐに地に倒れ落ちました
 彼は何も言うことができませんでした、すぐに死亡したからです
 彼が死ぬとすぐに彼の民は敗れました

375 三百人のトロサの騎士がそこで捉えられました
 その時その場で死んだ他の者も大勢いました

 カスティリヤの民はその時大きな榮譽を得ました

376 ここに素晴らしい心の持ち主の誇り高い伯爵がいます
 あなたたちは彼がトロサの伯爵にしたことを聞くでしょう

自らの手で甲冑を解いてやり
自分の兄弟より少なくない敬意を尽くしました

377 トロサの伯爵からすべて取り去ると
彼を洗い、高価な絹の衣装を着せてやり
繊細な細工を施した椅子に据えました
それは戦いでアルマンソルから獲得したものでした

378 カスティリヤの伯爵はすべての手段を使い
非常に大きな、良く出来た棺を作りました
それは真紅の布と
鏡の様に光る金色の釘で豪華に飾られたものでした

379 カスティリヤの伯爵は敵の臣下たちを牢から解放し
君主を護衛に来るよう命じました
大人にも子供にも皆誓わせました
君主から離れないようにその地まで

380 人々は習慣通りに彼に
高価で非常に立派な布の死装束を着せました
カスティリヤの伯爵は道中の費用を彼らに与え
ロウソクを買う千ペソを与えるように命じました

381 カスティリヤの伯爵が死者を死装束に包むと
棺が運び込まれ、釘でしっかり閉じられて
直ちにラバに積まれました

カスティリヤの伯爵はそれをすぐにトロサの伯爵領に運ぶよう命
じました

- 382 哀れなトロサ人たちは不運を嘆き
鋭い顔をして、名誉を失った民は
伯爵領の中心地トロサに着き
涙を新たにしました
- 383 悲しい、名誉を失ったトロサ人たちのことは置いておきましょう
彼らはすでに君主とともにトロサに着いていました
大きな戦果を挙げたカスティリヤの伯爵に戻りましょう
そして彼が他の悪い知らせをどのように聞いたかに
- 384 アルマンソルが非常に強力な軍とともに来ようとしていたという
十三万の鎧を着けた騎士を伴って
歩兵はどのようにしても数えられなかったでしょう
彼らはムニョのララ⁶⁴⁾の近くに集結していました
- 385 アルマンソルが再び破れると
非常に悲しみモロッコに行き
全アフリカに召集を掛けました
人々は皆罪の許しを得るように⁶⁵⁾集められました
- 386 軽快な民のトルコ人やアラビア人
彼らは戦いにおいては確かな人々で
ピンと張った弓と毒矢を放つ弩を携えていました

これらの人々で道や道路はいっぱいになりました

387 アルモアデ人⁶⁶⁾ やベニメリン人⁶⁷⁾ がやって来ました

彼らはラクダに籠や臼を積んでいました

東方から隣接する全モーロ人がやった来ました

これらすべての人で道は覆われました

388 これらの人々の中から彼らは人数も慎重さもなくそこにやって来ました

彼らは一箇所から来たのも、一つの意図があるわけでもありませんでした

彼らはサタンとその全仲間たちよりも醜い

それが汚く黒い地獄から出る時の

389 彼らが集まって、海を渡ると

ヒブラルタルという港に着き

アルマンソルは良き伯爵に復讐しようと思いました

それを達成するために休んではいられませんでした

390 コルドバとハエンを含む全アンダルシア

ロールカとカルタヘナを含む全アルメリア

そして名を挙げられない他の多くの地から

アルマンソルは巨大な騎士団を集めました

391 集まると、彼は行動を開始し

スペインを必ず征服して

カスティリヤの伯爵が彼から逃げられないようにし
伯爵を牢獄に叩き込み、不幸な死に方をさせようと思いました

392 その呪われた人々はすでにファシーナス⁶⁸⁾に来ていて
カスティリヤ人たちはすべてピエドラフィータ⁶⁹⁾にいました
伯爵は一彼の魂が苦しみを免れますように—
サン・ペドロに、あの彼の庵に向かいました

393 伯爵が庵に着き
かのドン・ペラヨという修道士を尋ねると
すでに亡くなったという知らせを受けました
八日前に葬られたと

394 伯爵は非常に敬虔な気持ちで庵に入り
跪いて祈りを捧げ
涙を流しながら祈願しました
《主よ、私を過ちと危険からお守りください

395 主よ、あなたに良く仕えるために
私は大きな苦難を味わい、多くの快樂を捨てています
この苦勞した体で私はあなたのために犠牲を払い
モーロ人とキリスト教徒の間の大騒動に身を置いています

396 スペインの王たちは大きな恐怖のあまり
主であるあなたを忘れ
あのモーロ人アルマンソルの臣下になりました

そして彼らは死の恐れから最悪のことをしました

397

私は以後彼らと共にいることを望まず
 あなたに仕えるため彼らの愛をもう望みませんでした

398 私は皆んなの中で一人孤立しましたが
 死を恐れず、あの悪魔も欲しませんでした
 彼らが私が離れているのを見ると
 すぐに私は彼ら皆からひどい脅しを受けました

399 その日ムニョの私のところに書状が届きました
 あの日五人の使者が来ました
 いかにもアンダルシアの王たちが私を脅していたことか
 私だけがスペインの民の中で抵抗していたので

400 彼らは私の上にその力を結集しようとしていました
 ある者たちは陸から、ある者たちは海からやって来ました
 彼らはできることなら私をこの世から抹殺しようとしていたので
 す
 主よ、あなたは私を護り、助けようと欲したのです

401 主よ、私はあなたの力で彼らを破り、彼らを殺しました
 私の知る限り、私はあなたに背いたことはありませんでした
 あなたを喜ばせたなら私は満足します

あなたが私を見捨てるはずがないと思います

- 402 イザヤが残した書によれば⁷⁰⁾
 あなたは僕を決して見捨てることはない^{しもべ}
 主よ、私は私の騎兵隊と共にあなたの奴隷です
 私のすべての日々においてあなたから離れることはないでしょう
- 403 しかし私はあなたの助けを必要としています
 主よ、あなたによってカスティヤが護られますように
 アフリカ全土が私に襲いかかっています
 主よ、あなたの助けがなければそれを護ることができません
- 404 私が持ちうる力や知恵をもってしても
 どうしてもそれを護ることはできないでしょう
 主よ、私に勇気と知恵と力をお授けください
 アルマンソルを殺すか打ち破ることができるような》

注

- 49) Las Quebañas, オリジナルは Lasquebañas で所在は不明
 50) Castilla 西端 Pisuerga 川に Itero de Castilla でかかる橋
 51) 旧約聖書サムエル記上 17 章
 52) アレクサンダーと戦ったインドの王
 53) San Pedro de Arlanza
 54) スペイン西部のポルトガルと境を接する地域であるが当時はモーロ人との係争地帯
 55) Era Degollada Nájera と Briones の間にある荒地
 56) 後年建てられた町で Santiago de Compostela への巡礼道にあった
 57) フランスの Poitou と Toulouse Poitou は西部の地方、Toulouse は南仏の町
 58) ナバラとフランスの間にあるピレネー山中の Cize (スペイン語名 Sizara) の峠

- 59) カスティヤの貴族に見られる名前
- 60) イスラエル三代目の王 旧約聖書列王
- 61) ユダヤ教司祭で偉大な戦士マッテヤの息子
- 62) これらの名はすべてシャルルマーニュのスペイン遠征に参加した騎士たちのものようである
- 63) カスティリヤの伯爵とトロサの伯爵
- 64) カスティリヤの辺境、ブルゴスの近くにあった町
- 65) 作者の十字軍兵士のキリスト教的発想で書かれていて、聖戦に参加することによる罪の許しを得ると
- 66) ベルベル人
- 67) やはりベルベル人か
- 68) スペイン北部ブルゴスとソリアの間にある村
- 69) ファシーナスの近くの村
- 70) 旧約聖書イザヤ書

参考図書・辞書

- THE POEM OF FERNÁN GONZÁLEZ P. Such and R. Rabone OX-BOW BOOKS 2015
- THE POEM OF FERNÁN GONZÁLEZ Edición H. Salvador Martínez Colección Austral 1995
- Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986
- Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfospolis 2002
- Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A.Kasten and Florian The Hispanic Seminary of Medieval Studies New York 2001
- Larousse Universal diccionario enciclopédico Librairie Larousse Paris 1968